



集会所で尾田氏の説明を聞く近江環人のメンバー



集会所。エコな工夫があちこちに



薪ストーブ。室内は外光を取り入れて明るい



シンボルツリーが住民を見守る

小舟木エコ村を舞台に

近江八幡市にて持続可能なまちづくりを目指して進行中の「小舟木エコ村」プロジェクト。今回の環人会ツアーでは、小舟木エコ村をフィールドに仕事をしている3名を案内人に、まちづくり、家づくりの様子を紹介しました。

まちづくりについて

最初に、(株)地球の芽の高田から、小舟木エコ村の成り立ちと現在のまちづくりについてご紹介しました。このプロジェクトは、NPO法人エコ村ネットワークが構築してきた「エコ村」の理念をもとに、株式会社地球の芽が事業化をすすめ、さまざまな地域団体や大学の研究室などとの協働ですめられています。2008年春から住宅の建設が開始され、現在(2009年9月)、100世帯を超えるご家族が入居されています。2009年4月には小舟木エコ村自治会も発足し、植樹祭や町内清掃など、住民によるまちづくりも始まりつつあります。

環人会ツアーVol.11

近江八幡・小舟木エコ村

- ◆日時 / 9月5日(土) 11:00~14:00
- ◆場所 / 小舟木エコ村 自治会館(近江八幡市)
- ◆集合 / 現地
- ◆参加 / 13名
- ◆案内人 / 高田友美、尾田昌之、古賀勝
- ◆取材 / 高田友美

小舟木エゴ村を特徴づけているものの一つに、「小舟木エゴ村風景づくり協定」があります。小舟木エゴ村での「持続可能な暮らしづくり」に向けて、家づくりや外構・庭づくり、暮らしの方針など、大切にしていきたいことを住民全員で共有し、実践していくことが目標です。小舟木エゴ村の中を散策してみると、あちこちで菜園越しにご近所さんたちがおしゃべりしていたり、雨水タンクを使って水まきをしていたり、果樹がたくさん植わっていたり、といった様子が見られます。

家づくりについて

小舟木エゴ村ではいくつもの設計事務所や、ハウスメーカー、工務店が家づくりに参画しています。近江環人を受講して、県立大学を卒業した後、地球の芽のパートナー設計事務所の一つ、(株)プラネットリビングに就職した尾田さんからは、小舟木エゴ村での家づくりへのこだわりを紹介してもらいました。とくに、街区単位で住宅設計に取り組んだエリアでは、従来のように個々の



塀がなくてもプライバシーを守るよう工夫された住宅配置

住環境を最適化するだけでなく、日当たりや風通し、植栽の配置など、隣接する区画同士の影響を検討した上で、街区全体としての住環境を最適化していくと挑戦しています。

センターエリアについて

今回の会場となった自治会館を含むセンターエリアは、滋賀県立大学松岡拓公雄研究室＋アーキテクトシップが

設計をしてくれました。近江環人一期生で、現在はアーキテクトシップに勤める古賀さんの説明では、エゴというと風力や太陽光発電など設備に頼ることを考えがちですが、この自治会館は、設備だけでなく自然の恩恵を受けるよう環境を活かし、外部とのつながりを大切に設計されている、とのこと。県産の木や土など自然素材のぬくもりが感じられ、自然光が気持ちよく差し込む空間を、参加者の皆さんも、肌で感じていただけたのではないのでしょうか。

自治会館の中でプレゼンを聞いた後は、実際に小舟木エゴ村の中を散策しながら、公園で子どもたちが遊んでいる様子、各家庭の菜園で野菜がすくすく育っている様子などを実際に皆で見まわりました。

まだ小舟木エゴ村での暮らしも始まったばかりですが、着実にまちが育ちつつあることを感じていただきました。数年後、数十年後にどんなまちに育っていくのか、皆さん楽しみに見守っていただければと思います。